

SAMPLE | 金額・年齢・家族構成はすべて架空です

老後資金 ファイナンシャルプラン表

家計全体の中で、損や見落としを減らすための判断材料を見える形にします。

相談テーマ	老後のお金の使い方相談	ご家族（架空）	夫 58 歳・妻 56 歳（子どもは独立）
実現したいこと	90 歳まで住まい・医療・介護費を見込み、毎月使える額を決める	現在の金融資産	預貯金 1,800 万円／投資資産 1,200 万円／退職金見込 1,500 万円

家族とお金の見通し

単位：万円／年（残高のみ万円） ※税金・社会保険料を差し引いた手取り収入で表示

年	年齢 夫・妻	家族の予定	手取り収入	基本生活費	教育・特別支出	相談テーマ費	年間収支	金融資産残高
2026	58・56	退職前	720	390	90	0	+240	3,240
2033	65・63	夫退職	360	340	80	0	-60	4,500
2035	67・65	年金開始	300	330	70	0	-100	4,250
2045	77・75	住まい修繕	300	340	180	0	-220	3,000
2058	90・88	介護費を想定	300	390	120	0	-210	950

この表から判断できること

01 65 歳以降は、日常生活費と特別支出を合わせると年間 60～20 万円の赤字になる年があります。	02 退職金を一度に使わず、住まい・医療・介護の時期を分けて残します。	03 年金を受け取る年齢と毎月使える額を、資産残高で判断します。
---	-------------------------------------	----------------------------------

数値は見本です。実際のプラン表は、相談者の資料と希望を確認して作成します。将来の収支や運用成果を保証するものではありません。

テーマ別の判断プラン

老後に毎月いくら使い、資産をどの順番で使うか

家計の見通しと相談資料の数字を重ね、選択肢ごとの影響を比べます。

判断案	毎月使える額	90 歳時点の資産	注意点
年金 65 歳開始	28 万円	約 950 万円	退職直後の取り崩しを抑える
年金 70 歳開始	26 万円→32 万円	約 1,150 万円	65～69 歳の生活費を確保
住まい費を先に確保	27 万円	生活資金約 900 万円	修繕費 500 万円を別管理

次を取る 3 つの行動

STEP 1 ねんきん定期便で 65 歳・70 歳開始の見込額を確認する。	STEP 2 住まい・医療・介護に残す金額を、日常生活費と分ける。	STEP 3 年 1 回、実際の支出と資産残高で毎月使える額を更新する。
---	---	--

相談後に手元に残るもの

この 2 ページのファイナンシャルプラン表を原則 2 営業日以内に送ります。年金の受取時期・毎月使える額・住まいなどに残すお金を、家計全体から自分で判断できます。

この見本だけでは 決められないこと	一人ひとりの税額や、税金を減らせる制度が使えるかの判断、申告書の作成は行いません。必要な場合は税理士等へご確認ください。
----------------------	--

運営：スペシャリスト・ドクターズ株式会社（保険代理店）

60 分の相談とファイナンシャルプラン表は、相談者の費用負担 0 円です。運営費は、提携する金融機関から受け取る手数料でまかなっています。

この PDF は表示例です。氏名・契約番号・会社名・金額はすべて架空です。個別の税務・法務判断は、税理士・弁護士・司法書士等へご確認ください。